

はじめに

特に小学校の教師にとって、授業は、学校教育の本丸とも言えるもつとも重要な教育活動です。授業時間こそが、子どもと関わる時間としてもっとも多い機会です。その授業時間において、子どもたちは、学力はもちろんのこと、集中力や忍耐力などの生きるために基礎となる力、また、学習規律を通してきまりを守ることや集団生活の基礎を学んでいきます。子どもとの関わりも、生徒指導をする機会も、授業を通して行われるのであります。

そして、その「授業」が学校生活のほとんどを占めている以上、生徒指導や行事運営を行う力はもちろん大切ですが、教師にとってもっとも重要で、必要不可欠なのは、「授業力」なのです。

ところが最近、「思うように子どもの学力が身につかない」「つまらなさそうに座っている子がたくさんいるけれど、どうしたらいいだろうか」「すべての子が参加できる授業ができない」「自身の授業において、このような状況をなんとかしなくては」……と、不安を感じている若い教師たちの声を耳にすることが多くなってきました。授業力を身につけるために何をすればいいのかと、日々悩み、それをひとりで抱え込んでいる姿を目にすることもあります。しかしそうした悩みは、決して若い教師たちだけのものではありません。どんなに経験豊富な教師でも、授業の力量を身につけ、高めていくために、日々悪戦苦闘と努力を重ねています。

「完璧な授業などあり得ない」と言われるほど、授業は奥が深く、また、

授業力は一朝一夕で身につくものではありませんが、子どもに学力が身につく授業づくり、子どもが生き生きと参加する授業づくりを求めて、スキルアップの必要性を感じながら、授業に対する熱い思いをもって全国各地に出向き、積極的に学ぶ若い教師たちも増えています。

そうした若い教師たちからは、

「子どもや保護者から信頼を得る教師になりたい」

「子どもにとって、つまらない授業にはしたくない」

「子どもの意欲を高め、学力を伸ばす授業がしたい」

といった、子どもに対する深い愛情や授業づくりに対する熱が、ビンビンと伝わってきます。

本書は、そんな情熱あふれる若い教師たちが、新任時代からの経験や失敗も織り交ぜながら、日々の奮闘・実践から検証を重ね、確実に手応えを得てきた授業アイデアを集めた一冊です。子どもと近い感覚で、今どきの子どものハートをとらえるアイデアにあふれています。単に、授業の HOW TO ととらえるのではなく、さまざまな技術を支えている、若さあふれる生き生きとした感覚と、彼らなりに学んできた授業論を読み取っていただければ幸いです。

若い教師の方々には、毎日の授業でご活用いただくことはもちろんのこと、授業づくりに悩んでいる教師の方々には、キャリアを問わずに、ぜひ、ご自身の授業の参考にしていただけたらと思います。子どもたちが集中して学習に取り組んだり、目を輝かせて授業に参加したり、意欲

的に学力を伸ばす努力をしたりと、授業が見違えるように変わっていくはずです。

これからのお仕事で支える、若い教師の方々にとって、本書が役立つ一冊になれば光栄です。

最後になりましたが、若手教師を育てるためにご尽力を賜り、最後までご指導くださいました学陽書房の皆様に、この場をお借りして深謝申し上げます。

2016年2月

中嶋郁雄

はじめに 3

Chapter

1

ここを押さえればうまくいく!
授業づくりの基礎・基本

- 学級づくりも、生活指導も、人格形成も、すべての基礎は「授業」にある! 12
 - ①子どもがパッと集中して聞く教師の「**話し方**」 14
 - ②子どもが間違いを恐れない教師の「**聞き方**」 16
 - ③子どもに真似したいと思わせる
「あいさつ」と「姿勢」 18
 - ④集中力は時間厳守とメリハリから!
「45分間の時間術」 20
 - ⑤板書案と明確なルールで授業が安定!
「板書」と「チョークの使い方」 22
 - ⑥発言力や思考力をアップさせる「**ノート指導**」 24
 - ⑦子どもにスキをあたえない「**机間巡回**」 26
 - ⑧良い緊張感を持続させる「**指名**」 28
- column 1 ► 「本物」の授業を知った感動の日** 30

Chapter**2**

授業が成功する秘訣はここにある！

学習習慣の徹底指導

- 子どもの学力アップだけじゃない！

学習習慣は学級経営に直結する 32

①やる気のスイッチはここから入る！「**授業準備**」 34

②基礎学力は作法から！「**起立＆着席**」 36

③集中力をぐんと引き出す

「**椅子の座り方・姿勢の正し方**」 38

④望ましい授業風土をつくる「**正しい言葉づかい**」 40

⑤どの子も話せる！聞ける！「**話し方ルール**」 42

⑥友達の意見から気付きを発見させる「**聞き方ルール**」 44

⑦子どもの参加意識をどんどん高める「**発言ルール**」 46

⑧指導事項とリンクした「**まとめの書かせ方**」 48

column2 ▶理想を求め、焦りすぎた失敗 50

Chapter**3**

学びの意欲を育てる！

授業の組み立て方・進め方

- 子どもの輝きと学校生活の充実は、

学ぶ意欲に比例する！ 52

①子どもを一気に引きつける「**導入**」 54

contents

| | |
|------------------------------|----|
| ②ゴールを示してからの学びのスタート! 「めあての明示」 | 56 |
| ③「知りたがり・やりたがり」を刺激する! 「説明・指示」 | 58 |
| ④どの子も夢中で手を挙げる「発問」 | 60 |
| ⑤子どもの集中・熱気が持続する「ユニット展開」 | 62 |
| ⑥学ぶことのおもしろさを味わわせる「ゆさぶり」 | 64 |
| ⑦技能や主体性が身につく「調べ学習」 | 66 |
| ⑧大事なのは何を得るか! これが本当の「話し合い活動」 | 68 |
| column3 ▶授業構成組み替えのすすめ | 70 |

Chapter

4

全員参加の豊かな学びでクラスもまとまる! 授業デザイン・展開術

| | |
|--|----|
| ●授業の中に、集団づくりの基礎が詰まっている! | 72 |
| ①思いやりと連帯感を芽生えさせる「ペア学習」 | 74 |
| ②仲間との成功体験をつかみ取らせる「課題づくり」 | 76 |
| ③協力と助け合いを体験させる 「一人の子どもだけではできない学習」 | 78 |
| ④一人ひとりの違いに明るいスポットを当てる 「意見が分かれる選択肢の設定」 | 80 |
| ⑤聞き合い、認め合う姿勢を育む「つぶやき宝探し」 | 82 |
| ⑥競争心に火をつけ、団結力を爆発させる「グループ競争」 | 84 |

| | |
|--|----|
| ⑦「教えたがり・やりたがり」を目覚めさせる 「協働・ワークショップ型授業」 | 86 |
| ⑧集団で学び合うことの楽しさがあふれ出す 「ユーモア注入」 | 88 |
| column4 ▶既存の授業技術を疑う | 90 |

Chapter

5

どの子もわかる！夢中になる！ 教科別授業アイデア

| | |
|-----------------------------|-----|
| ●同じスタートラインが、子どもに自信をもたせる！ | 92 |
| ①国語科：実践1 「手引き」に注目して国語授業を変える | 94 |
| 国語科：実践2 「間接的に問うこと」を基本に | 95 |
| 国語科：実践3 タイプ別学習法で漢字指導 | 96 |
| 国語科：実践4 難読漢字を調べさせよう | 97 |
| ②算数科：実践1 タイプ別学習法で時間の指導 | 98 |
| 算数科：実践2 単元第1時は「復習」の時間を！ | 99 |
| 算数科：実践3 時間毎の出発点を準備する | 100 |
| 算数科：実践4 分数のかけ算（真分数×帯分数） | 101 |
| ③社会科：実践1 「考えを広げる」社会科学習 | 102 |
| 社会科：実践2 苦手な子もできる地図指導 | 103 |
| 社会科：実践3 重要語句の暗記はお任せ！「班クイズ」 | 104 |
| 社会科：実践4 社会科資料の手に入れ方・見せ方 | 105 |
| ④理 科：実践 動画を活用することで学習意欲 UP！ | 106 |

contents

| | |
|-------------------------------|-----|
| ⑤体育科：実践　全員を巻き込む「ルールのマイナーチェンジ」 | 107 |
| ⑥図画工作科：実践1　単元の導入で見本作品を見てみよう | 108 |
| 図画工作科：実践2　本物そっくり | 109 |
| column5 ►得意教科を無理にでもつくろう | 110 |

Chapter

6

みるみる自信がつく！ 授業がうまい教師が 必ずやっている事前準備

| | |
|--------------------------------------|-----|
| ●努力なくして成長なし！ 子どもに恥じない努力を | 112 |
| ①とにかく教科書を大事に！ 「教科書研究」 | 114 |
| ②自分の得意な「型」を見出す 「授業研究」 | 116 |
| ③こうすればコツがつかめる！ 「教材研究」 | 118 |
| ④質より量からコツがつかめる！ 「指導案づくり」 | 120 |
| ⑤自分の課題が見えてくる 「公開授業と研究協議の心構え」 | 122 |
| ⑥「保護者の安心」と「子どもの成長」を核にする 「参観授業づくり」 | 124 |
| ⑦お得感のある工夫を尽くして保護者を巻き込む 「保護者会づくり」 | 126 |
| ⑧「師匠」との出会いこそがスキルアップへの道！ 「時間外活動」 | 128 |
| column6 ►「すごい授業」を再現してみよう | 130 |

学級づくりも、生活指導も、人格形成も、 すべての基礎は「授業」にある！

子どもにとって、学校生活の7割弱の時間が授業です。そして、その授業が、教師力の「本丸」です。授業の中で、友達関係や規律を学ばせなくてはなりません。授業は、学力形成の場であると同時に、人格形成の場であると意識しておきましょう。

①授業には、人格形成の要素が詰まっている

授業には、気分が乗らなくても、我慢して参加しなくてはなりません。そのことが、忍耐力や人との協調性を培うことになります。指名されれば、恥ずかしい気持ちに打ち克って、意見を主張しなくてはなりません。そのことが、勇気と自信につながっていきます。何かに取り組む時の集中力も、授業によって鍛えられていきます。

このように、授業は、教科の学力を形成するだけでなく、「忍耐力」「協調性」「勇気」「集中力」といった、人として大切な力の基礎形成に深く関わっています。授業は、学力形成の場であると同時に、人格形成の場であるという認識をもって臨むようにしましょう。

②置かれた環境への適応力の育成

将来、子どもたちが、社会で生きていくためには、置かれた環境に適応していく力が必要です。たとえ、自分の思い通りにならなくとも、つらく苦しい状況に置かれたとしても、自分に課せられた仕事や役割を進めていかなければなりません。考えてみれば、人生とは、自分の思うようにならないことばかりと言っても過言ではありません。そのような状況に適応するためには、「やるべきことをやる」力を、子どものうちから育んでいかなければならない

のです。

教師は、たとえ子どもの気分が乗らなくても、参加させ、学力をつけさせなくてはならないという視点で、授業をとらえ直す必要があります。

③自尊感情の育成

良い授業の条件の1つに、「子ども自らに考えさせ、苦労させ、解決させる」ことがあります。授業の楽しさは、「分かった」「できた」「がんばった」という、自分自身への自信を得ることです。たとえ、満点を取ったとしても、それが、教師や親から手取り足取り教えられながら得たものだったとしたら、子どもは満足感を得ることはありません。

子どもになんの疑問をもたせることもなく、解を導き出すための苦労をさせることもない授業、教科書や参考書にある知識をあたえるだけの授業は、正解を導き出すための過程の中にある学びの楽しさを、子どもから奪っています。そのような授業は、知的好奇心を喚起することもなく、「できた」「分かった」という自信をあたえることも当然ありません。

授業は、学力形成の場です。しかし、単に知識や技能を身につけさせるだけでなく、自尊感情を育む場でもあることを忘れてはなりません。

④自律に向けた基礎の育成

三度の食事よりも勉強が大好きという子は、そういうものではありません。大方の子が、怠けたいと思う心と闘いながら、授業に臨んでいます。しかし、取りかかりはそういう気持ちであったとしても、子どもが夢中になる授業であれば、子どもは自分から進んで学習に取り組むようになっていきます。そして、知らず知らずのうちに、「勉強は自分でやるもの。能動的にやるから楽しい」と、言葉では表現できなくても、感覚的に覚えていきます。それは、自律の基礎を育んでいることです。

子どもがパッと集中して聞く 教師の話し方

これから大事な連絡をしなければならないのに……。ここが授業の大切なまとめなのに……。そんな時に限って、子どもたちは教師の話をなかなか聞いてくれないものです。その原因是、もしかすると、教師の話し方に「間」が抜けていることかもしれません。



★……自分の話し方を振り返る

子どもたちがなかなか話を聞いてくれない。これは、若い先生ならば一度は直面する「あるある」悩みの1つです。教師が説明をしているのにもかかわらず、ザワザワ……。これはいったい、なぜなのでしょう？

決して、子どもたちは教師のことが嫌いだから、ということではないのです。そうではなく、その原因是、もしかすると、教師の「話し方」にあるのかもしれません。あなたの話し方は、ただひたすら延々と話し続けているようになってはいませんか？　ずっと同じ調子で、隙間もないくらいに話し続けているということはありませんか？

★……びっくりするくらい「間」を取る

国語の授業名人、野口芳宏先生（植草学園大学名誉教授）は音読指導の際、次のように子どもへ指導します。

「題名と本文の間は、びっくりするくらい『間』を取りなさい」

話し方において、「間」はとても重要な要素です。野口先生は、①間がないのは「間抜け」、②間を間違えることを「間違い」、と言います。

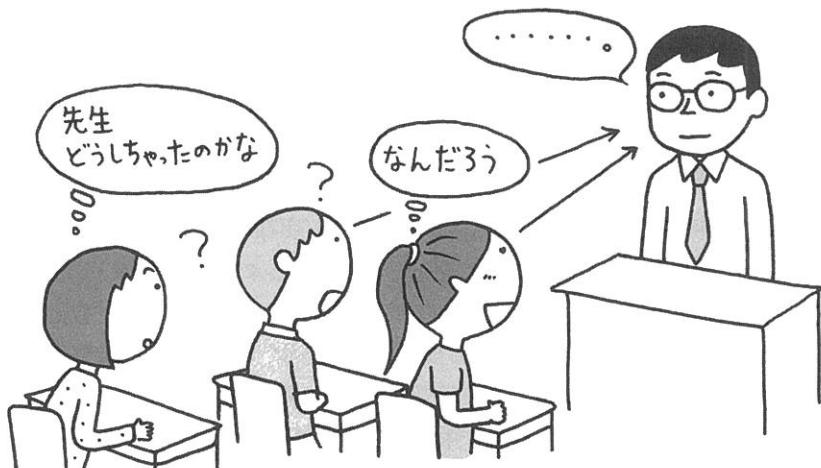
私たち教師も、無意識に「間抜け」「間違い」という失敗をしてしまっているかもしれません。「間」のない話し方は、子どもたちにとっても飽きやすく、

頭の回転をストップさせてしまうのです。

★……「間」を取って話してみよう

早速、あなたの話し方にも意識して「間」を取り入れてみましょう。「間」を取るタイミングは、「ここは聞いてほしいな！」と特に思う部分の前です。そこで、「ビックリするくらいの間」（5秒以上）を取ってみてください。

きっと、子どもたちは「なんだなんだ？」と思い、先生の顔をまじまじと見ることでしょう。「次は何を話すのだろう」と、子どもたちは「間」を待ちながら期待するのです。子どもが思わず身を乗り出してしまうくらいまで「間」を取ってみてください。



教師が適切な「間」を取ることで、子どもは集中する！

+ one point!

より効果的にするためにには！

授業の際、自分の話し方を、ぜひ録音してみましょう。そして、勇気を振り絞って再生ボタンを押してください。それだけで大きな改善点が見つかります。